

陳情第178号	受理年月日	令和2年6月10日
付託委員会	総務財政委員会	
件名	ふるさと北九州市応援寄附金への新たな仕組みの導入について	
要旨	<p>希望のまちプロジェクトは、工藤会本部跡地を全世代型の福祉拠点へ生まれ変わらせるだけでなく、3つの大きな意味合いを持っている。</p> <p>1つ目は、市のイメージの転換である。怖い町というイメージを変える新しいまちづくりには、地域外にいる方々にも協力を求める意識改革が必要となる。傷ついた人をそのまま受け入れられる社会。困ったときに助けてと言える社会。いわば家族の役割を分担できる社会の実現である。</p> <p>2つ目は、都市型、全世代型の支援施設の集結によって多世代間交流を促し、開かれたシェア拠点としていくことである。今後、他地域からの交流人口や関係人口の拡大を図る際にも、こうした拠点が必要となってくる。</p> <p>3つ目は、北九州市にとどまらず、全国規模に支援が拡大したプロジェクトと位置づけられることである。施設ができたら終わりではなく、多くの国民とともに、未来へ、世界へと発展し続けるプロジェクトへとつながっていく。</p> <p>このような視野を持った希望のまちプロジェクトを、北九州市民だけでなく、全国からの支援者の支えにより実現していくため、ふるさと北九州市応援寄附金による支援の対象に加えていただくことを提案する。</p> <p>ふるさと納税は、返礼品合戦から、地域外の人々から支援を得る企画勝負となってきた。改めてこの制度の趣旨は、ふるさとに貢献、支援したい納税者の思いを実現することにあると考える。また、人口減少や少子高齢化の中、ふるさと納税を通じて地域に関心を持ってもらい、支援者を得て、NPO等との協働により地域の課題解決につなげている自治体が数多くある。SDGsのリーディングシティである北九州市は、誰一人取り残さないという理念の実現に向け、他の自治体に先駆けたさ</p>	

まざまな取り組みを展開しているが、こうした仕組みを取り入れることにより、更に多くの人々に第2の住民として進展を見守ってもらえる可能性がある。

全国的にも注目されている希望のまちプロジェクトを、応援してくれる方々と一緒に歩みを止めない取り組みにしていく。応援した人は機会があれば北九州市を訪れたいと思い、交流人口、関係人口の拡大につながる。そしてさまざまな人々が集う福祉拠点としての真価も発揮されていく。これこそ、先駆的な北九州市独自の取り組みとなるのではないだろうか。

については、ふるさと北九州市応援寄附金に、次のような仕組みを導入していただきたい。

記

- 1 市民協働の流れを進め、持続可能な担い手を応援していくことで、血税を投入するばかりではなく、広く寄附等により解決を図っていくため、自治体が認めたNPO等を指定して応援できる仕組み。
- 2 指定したNPO等が主体となって取り組む市民主役事業に対し、事業を指定して寄附ができる仕組み。